

桂坂だより 1月

令和8年1月7日(水)
京都市立桂坂小学校
校長 中村 佳明

桂坂だより【カラー版】
行事・学習・活動の様子
HPにて公開中！



学校教育目標
その手で未来を創りあげる 桂坂の子
～かかわる、つながる、そして、かがやく～
合言葉は「キラりんく」



「すごろく」に見る教育効果

校長 中村 佳明

明けましておめでとうございます。約2週間の冬休み、きっと、各ご家庭でのなごやかな時間に、子どもたちはぬくもりや幸せをいっぱい感じたことでしょう。さあ、3学期にはどんな成長した姿を見せてくれるのだろう、と今から胸が高鳴っています。

保護者の皆様、旧年中は多大なるご理解ご協力を賜りありがとうございました。「キラりんく」の学校づくりを推進し、子どもたちが安心して学び挑戦できる環境をめざすことができるのも、ひとえに保護者の皆様のご支援があってこそだと感謝しております。ここから始まる3学期は1年間のまとめであり、次のステップへの大切な準備期間です。どうか引き続き、家庭と学校がしっかりと連携し、子どもたちの可能性を広げる学びを応援していただければ幸いです。

新しい年が、子どもたちにとって希望に満ち、笑顔あふれる日々となりますよう、教職員一同、全力で取り組んでまいります。よろしくお願いいたします。



「豊かなつながり時間の創出」は、本校がめざす「キラりんく」の1つ、大切な特色です。児童がみんなで作る、つないできた取組は、残すところ「6年生を送る会」のみとなりました。



さて、コンピュータゲームが遊びの主流である現代において、「お正月遊び」をする子はどれくらいいるのでしょうか。寒空の中で、凧あげやこま回し、羽根つきをする子どもたちの姿を見ることはほとんどなくなりました。おうちの中で、かるたや福笑いをすることも少なくなっているかもしれません。

「すごろく」もまた「お正月遊び」の定番ですが、わたしは「すごろく」には高い教育効果があり、お正月に限らずどんどんやってほしいと思っています。何よりのよさは、1つの盤を囲んで複数人で遊ぶため、**自然発生的にコミュニケーションが生まれる**ところです。オンラインゲームでは、顔の見えない相手に罵詈雑言を浴びせ問題になるケースもありますが、「すごろく」では顔を寄せ、頭を突き合わせ、直接会話を楽しむことが中心です。うまく進めたら思わず歓声が上がり、不都合なマスに止まったらため息や笑いが起こる…とても健全なコミュニケーションだと思います。



それだけではありません。マスに書かれた指示や質問に答えることで、言葉を使う機会が増え、**語彙力・表現力の向上**が期待できます。また、サイコロの目を数える、進むマスを計算するなど、自然に**数の概念や数量感覚が養われます**。順番やルールを守ること、勝敗に対する態度を考えることも大きな要素となるので、**社会性や協調性の育成**にも有効です。

わたしが「すごろく」を推奨する最大の理由は、スタートからゴールまでの道筋がすべて明らかになっているため、戦略を考えられる点です。いわゆる「**見通しをもつ力**」が**養われる**のです。「あのマスには止まりたくないな。」とか、「あっちの道を通る方が有利だな。」とか、みんな考えるのです。それでも、運任せのサイコロで予定が狂ってしまうので、その度に「**変更、調整をくり返す力**」を発揮することになるのです。まさに、今求められている主体的な学びの在り方にばっちり重なる、と感じています。

購入しなくても、わいわい言いながら自分(たち)で制作することもできます。また、最近では、手軽にダウンロードすることもできます。ぜひ、遊びの1つに「すごろく」を加えてみてはいかがでしょうか。

※国際連合広報センターのサイトから、「ゴー・ゴールズ すごろくで SDGs を学ぼう」がダウンロードできます。



〈学習の様子〉



6年生茶道体験

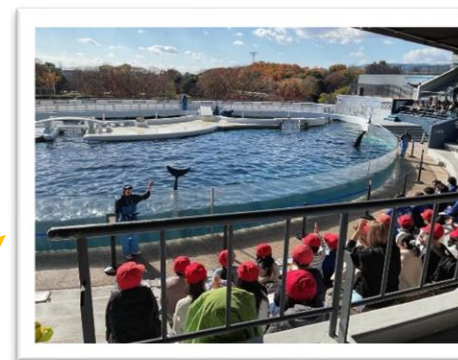
普段の生活ではなかなか触れることのない茶道を体験し、日本の伝統文化に親しむ時間となりました。

子どもたちは、茶席での立ち居振る舞いやお茶を点てる作法を学びながら、礼儀や相手を思いやる心、「おもてなし」の精神を感じ取っていました。

落ち着いた雰囲気の中で集中し、真剣な表情で茶せんを動かす子どもたち。丁寧にご指導いただいた地域指導者の皆様に心より感謝申し上げます。

館内ではグループごとにクイズラリーをしながら見学しました。2年生がリーダーとなり、1年生に声をかけたり案内したりする姿がとても頼もしかったです。

ペンギン、クラゲなどをじっくり観察しながら、「どんな特徴があるかな?」「どこに住んでいるのかな?」と話し合う場面もあり、自然や生き物への興味がさらに広がりました。



1・2年生・やまゆり学級合同遠足
(京都水族館)



4年生さすてな京都へ社会見学

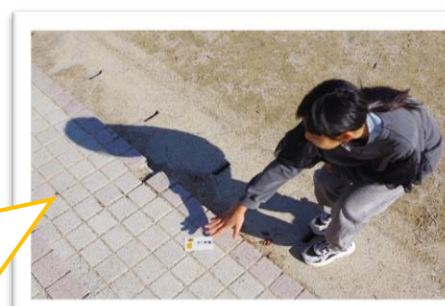
普段、何気なく捨てているゴミがどのように処理され、再利用されているのかを自分の目で確かめることができました。

巨大なごみ処理施設の仕組みや、分別の重要性を学ぶ中で、「こんなにたくさんの工夫があるんだ!」と驚きの声があがっていました。

あわせて、ゴミ処理能力には限界もあることを知り、ごみを出さない工夫も必要だと実感していました。

今回は特別ルールとして、カードを拾うと「男の子3人救出」などのミッションが発生する仕組みを取り入れ、ゲーム性を高めるための工夫を加えました。

子どもたちは、走るだけでなく「どうすれば仲間を助けられるか」「どのタイミングでカードを使うか」と考えながら、作戦を立てていました。



プロジェクト委員会企画! ケイドロ

